

第12回

Jクレジット活用事例 - 愛知県主催「Let's エコアクション in AICHI」 -

今回のコラムでは、中部地域（中部経済産業局管内の愛知県、岐阜県、三重県、富山県、石川県）の自治体における中部産 CO₂ クレジットの活用事例を紹介いたします。

11月19日（土）、20日（日）名古屋市内において、愛知県主催の「Let's エコアクション in AICHI」が開催されました。愛知県では、愛知万博、COP10（生物多様性条約第10回締約国会議）、ESDユネスコ世界会議での取組を通じて、県民の皆様の環境意識が大きく高まりました。こうした背景をもとに、地球にやさしい身近な環境配慮行動「エコアクション」（※1）へとつなげていただくために、県民参加型の環境イベントを積極的に実施しています。

今年度の「Let's エコアクション in AICHI」においては、中部地域の県主催のイベントとしては初めて、「中部産 CO₂ クレジット」を活用して、イベントで排出されるCO₂をカーボン・オフセット（埋め合わせ）するCO₂排出量ゼロの環境配慮型イベントとして実施されました。

具体的には、イベント運営者・来場者・出展者の移動に伴い発生するCO₂排出量、各出展者のブースにおける自家用発電機の燃料使用に伴うCO₂排出量、ステージでの電力使用に伴うCO₂排出量など、合計で約34トンのCO₂をカーボン・オフセットしました。

中部産 CO₂ クレジットの活用を通じて、愛知県のご担当者からは、以下のようなコメントを頂戴しました。

「愛知県の環境への新たな取組として実施できた意義は大きい。環境活動の普及啓発は今後も必要だが、他方で、普及啓発におけるCO₂排出の削減も課題のひとつとして捉えていたところ、中部産 CO₂ クレジットの活用についてソフト支援事業者から打診があり、本県のイベントでの活用につながった。活用におけるCO₂排出量の試算などの手続きはソフト支援事業者が実施してくれるため、通常業務以上の負担もなく、スムーズに進められることができた。一方で、課題はJ-クレジット制度に対する理解が進んでいないことと感じた。官民間問わず実施可能な環境への取組として中部地方における認知度が高まり、CO₂削減が困難な場面において、中部産 CO₂ クレジットの活用が進むことを期待したい」。

中部経済産業局では中部産 CO₂ クレジットプラットフォームを創設して、Jクレジットの創出・活用に関する様々な支援を実施しております。気軽にご相談ください

※1:エコアクション:日常生活の中で行う地球にやさしい身近な環境配慮行動（例:ごみの分別、公共交通機関の利用、自然を守る活動、地産地消の消費行動 等）



(ソフト支援事業実施機関)

三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 名古屋

担当:松田、長尾、林田、有馬、大坪、小森

〒461-8516 愛知県名古屋市東区葵 1-19-30

電話 052-307-1102

中部Jクレ コラム バックナンバー

<http://www.chubu.meti.go.jp/d34j-credit/platform/column/column.html>

[第1回]地球のために1トン数千円から

[第2回]削減したCO2を売るには? ~J-クレジット制度活用のポイントあれこれ~

[第3回]クレジット購入企業の社長に聞く ~株式会社アユセン~

[第4回]教えて! CO2クレジットの売買

[第5回]北陸の温泉旅館におけるヒートポンプ導入によるCO2削減事例

~株式会社ふくみつ華山温泉~

[第6回]カーボン・オフセットを活用した商品開発

[第7回]平成28年度 J-クレジットの動向

[第8回]省エネにつながる設備投資をしたのですが、J-クレジット化できますか?

[第9回]Jクレジット制度×学生のコラボレーション

[第10回]J-クレジット制度説明会でのQ&Aのご紹介

[第11回]カーボン・オフセットを活用して地球温暖化対策の意識啓発を

~自治体の取り組み~
